

# 2023年7月25日掲載 物流ニッポン

## 第一貨物■運転技能大会

# 事故根絶を目指す

第一貨物（米田総一郎社長、山形市）は17、18の両日、山形県天童市の中央研修所・運転技能訓練コースで運転技能競技大会を開いた。全国6支社の10チーム40人と関係会社8社から8人がオブザーバー参加し、各競技で日頃の腕を競った。

開会式で、大会会長の米田社長が「私たちは公道を利用し、荷物を安全確実に届けている。皆さんは各支社から選抜された優秀なプロのドライバー。日頃、培った技能を遺憾なく発揮してほしい」と述べた。大会顧問でディー・ティー・ホールディングスの武藤幸隆

取締役は「大会はプロドライバーとしての社会的責任を深く自覚し、法令順守と安全意識の高揚を図り、事故根絶を目指すもの。頑張ってください」と激励した。

山形運輸支局の有路仙之支局長らの祝辞に続き、出場選手を代表して、加藤弥選手（山形支社A）が選手宣誓を行った。

トラックとフォークリフト、省燃費運転の3部門を開催。トラックは大型（増トン車）、普通車（4トン）、普通車（2トン）に分かれ、学科と運転実技、日常点検、省燃費運転を実施。フォークリフトは1チームから2人が出場し、運転実技のみ

を行った。学科と省燃費運転は17日に、それ以外は翌日に行った。その結果、団体は山形支



社Aが優勝。準優勝は山形支社B、3位には東京支社Aが入った。

個人の部では、大型車の部が選手宣誓を行った加藤選手、4トンが亀井晃夫選手（山形B）、2トンは富樫幸太選手（山形A）がそれぞれ優勝。フォークリフトは田島卓選手（仙台支社A）が激戦を制した。

省燃費運転では、大型車の部は加藤氏が1位となり、団体、個人のトラック大型車を含め3冠を達成。4トンの部は山村和弘（名古屋支社）、2トンの部は石井永輝（北関東支社B）の両選手がトップに輝いた。日常点検競技に挑む選手ら

また、関係会社では、トラックの大型車で堀田清弘（東北第一物流）、重田竜耶（長野第一物流）の両選手、4トンは毛利博幸（第一梱包運輸）、小根澤忠夫（東京第一物流）の両選手にそれぞれ奨励賞が贈られた。

（黒田秀男）